

はっくつ'98

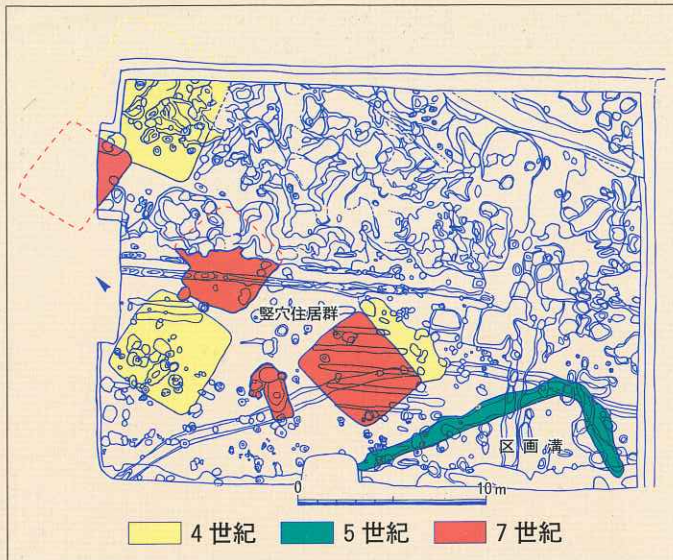
＝栗東町話題の発掘調査＝

辻 遺 跡
林 遺 跡
野 尻 遺 跡



1999. 3

栗東町教育委員会・財栗東町文化体育振興事業団



▲ 遺構全体図



▲ 初期須恵器出土状況

辻遺跡は縄文時代前期から近世以降まで続く複合遺跡として知られています。なかでも古墳時代は、これまでの調査で竪穴住居が300棟以上みつかっており、全国的にも重要な遺跡として注目されています。

今回の調査でも、縄文時代から近世以降までの遺構・遺物がみつかっています。中心となる古墳時代から白鳳時代（4～7世紀）では、竪穴住居6棟をはじめ、墓と思われる土坑、方形に区画された溝などがあります。

特に注目されるのは、方形に区画された溝から、県内では最古級（5世紀）となる初期須恵器がまとまって出土したことです。須恵器の種類には、杯身、高杯、蓋があります。杯身は、底が平坦になるタイプと、底が丸みを持ち羽釜のように深みのあるタイプがあります。また高杯は2点出土し、いずれも蓋を伴わないタイプのものです。

これまでに県内でも初期須恵器もしくは、朝鮮半島から直接もたされた可能性をもつ陶質土器が出土していますが、形や文様、胎土など、少しずつ違う様相を示しています。これらの土器はどこで作られたものでしょうか？今回みつかったものについては、形や胎土から判断した限りでは、大阪の堺周辺の丘陵で焼かれたものが滋賀県に運ばれてきた可能性が強いと思われます。



▲ 竪穴住居周辺の作業風景

鎌倉時代の屋敷地を発掘

― 林遺跡 ―



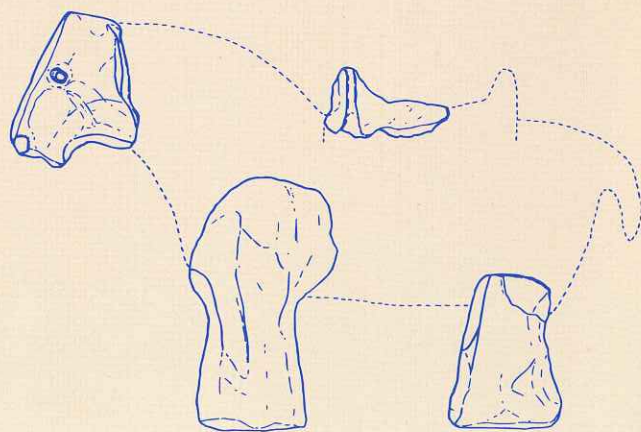
林遺跡は近江最大の河川である野洲川が沖積平野へ流れ出る、扇状地上部に立地する遺跡です。

調査は大字林字藤塚、新善行寺の西側で実施しました。

見つかった遺構は鎌倉時代（13～14世紀）の掘立柱建物や、その屋敷地を区画する溝、土坑、水路などがあります。上の写真は調査区の東半分を北側上空から撮影したものです。白と緑のテープが張ってあるのが3棟の掘立柱建物で、重なりあっていることから、建て替えられているのが分かります。調査区の南端には屋敷地を区画したと考えられる浅い溝がみえます。

その他、お墓やゴミ捨て穴と考えられる土坑がいくつも見つかりましたが、そのうちのひとつからは土器がたくさん捨てられた状態で出土しました。下の写真がそれで、長方形をした土坑の大きさは長さ3.8m、最大幅1.8m、深さは90cmです。土器は黒色土器碗や土師皿の他、釜が10数点も出土しました。釜がこれだけまとまって見つかるのは珍しい事です。

また、写真北東の水路からは奈良時代（8世紀）の土器とともに町内4例目の土馬が出土しました。古代には、牛馬を水神に捧げて雨乞いをする祭りがあり、土馬はその身代わりとも考えられています。



土馬

弥生時代後期の環濠か？

— 野 尻 遺 跡 —

野尻遺跡は大字野尻から東海道本線栗東駅周辺に分布する縄文時代から中世にかけてのさまざまな生活の痕を残す遺跡です。また、近江の弥生時代を代表する伊勢遺跡と下鈎遺跡の中間にあたる場所でもあります。

今年度の調査は幅10m、長さ50mと小さな調査区ですが、弥生時代後期前半（1世紀頃）の溝。弥生時代末（3世紀頃）の溝、竪穴住居などが見つかりました。

そのうち弥生時代後期前半の溝は幅2m、深さ90cm。断面の形態はV字に近い逆台形で、下の写真に見るように突然途切れています。この事実からこの溝が通常の水路として掘られたのではなく、環濠などの区画施設として掘られたことが分かります。

この溝からはたくさんの土器が出土しまし



た。甕、壺、器台、高杯、鉢など50個体以上です。また、上の写真の石錘というおもりも出土しました。長さ9.5cmの細長い石の一方に、ひもを結び付ける加工がされています。重さは160gあります。

今回の調査で、野尻遺跡には大きな区画施設をもつ弥生時代の集落が存在することが分かり、大きな成果を得たといえます。



遺跡の位置

はっくつ'98

栗東町話題の発掘調査

発行日 1999年3月31日

編集・発行 財栗東町文化体育振興事業団
埋蔵文化財調査課

栗東町出土文化財センター内
〒520-3011 滋賀県栗東市栗東町下戸山47

TEL 077-553-3359 FAX 077-553-3514

印刷・製本 株式会社 スマイル印刷工業